

(参考様式5-1)

奥尻地区活性化計画 改善計画書

平成24年 9月24日作成

都道府県名	計画主体名	地区名	計画期間	実施期間
北海道	奥尻町	奥尻島	平成19年度～ 平成23年度	平成19年度～ 平成21年度
事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体	
農林水産物処理加工施設	①実施設計 ②ワイナリー工場（鉄筋造2階建て1,450㎡） 駐車場整備		農業生産法人 株式会社 奥尻ワイナリー	
農山漁村活性化施設整備 附帯事業	PR用パンフレット及びポスター			

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B/A	備考
地域産物の販売額の増加	4.92%	1.05%	21.34%	

2 目標が達成されなかった要因

<p>春先の低温やブドウ開花期の5月下旬から6月にかけて濃霧が発生し、日照不足で受精が悪くぶどう収量が激減した。このような気候が数年続いているため、目標が達成されなかった。 また、水はけの悪いほ場も、収量減少の要因となっている。</p>
--

3 目標の達成に向けた方策

目標達成年度	29年度
事業の推進体制	事業実施主体がほ場の基盤整備事業を実施できるよう、町が支援していく。
具体的取組方策	<ul style="list-style-type: none">・ほ場の排水不良を解消するため、計画的に暗渠排水整備を実施し収量の確保並びに品質の向上を目指す。・暗渠排水整備は、平成24年度から平成25年度の2カ年で実施する。

4 改善計画に対する第三者の意見

①奥尻町農業委員会会長 長 谷 川 博

ブドウの栽培面積は21haであり、定植してから3年程度の育成が必要で、畑には3年未満の収穫期に至らない若い木が多く存在すること、また開花期の天候不順の影響により、収穫量が予定よりも減少している状況にある。

今後、排水不良の畑を減少させることにより、収穫量の増加が見込まれ、また、木の成長により、改善計画の達成は十分可能であると考えます。

また、農地の利用集積を進め、さらなる耕地面積の拡大と、地域農業の発展に寄与されたい。

②檜山漁業協同組合 理事 水 野 諭

売り切れとなる品物が出るなどワイン販売は堅調であるが、地域の海産物とのコラボレーションなど、奥尻のブランド力を活用し、より一層の販売拡大に努められたい。

そのためには、ぶどうの収量の増加を図り、生産量を拡大し在庫を確保することが必要であるので、排水改善による基盤整備は非常に効果的である。

③奥尻町内会連合会長 神 崎 通（果樹栽培精通者）

ブドウ生産の安定化を図るために、病虫害防除技術や園地の管理技術のさらなる向上を図ることが重要である。また、ブドウ栽培は排水が良好な土壌が適しているため、排水不良の園地に対する暗渠排水を整備することは、増収・品質向上が期待できる。